

㊦病理部

1. 研修目標

医療を行なう上で重要な判断材料を提供する病理部で、「実務のための各種知識を習得し、病理業務の能力を得ること」、「臨床医となったとき、病理部と円滑に仕事ができる知識を身につけること」を目的とする。

研修修了までに修得目標とする基本業務は、臓器切り出しと通常症例の病理診断である。

これらを修得した上でさらに時間的余裕があれば、術中迅速病理診断、細胞診、病理標本作成技術、免疫染色技術、電顕写真技術などの中から、希望する技術を指導する。

2. 研修指導体制

病理部では全身の病理診断を担っているスタッフ病理専門医・細胞診指導医が3人居る。

大学病院のほぼ全科から寄せられる多彩な病理診断依頼に対して、対処する方法を身につける。

呼吸器、乳腺、脳外科領域では臨床・病理カンファレンスも定期的開催されており、それらに参加して症例呈示する能力を身につける。

3. 研修指導責任者 田口 尚

4. 研修内容

- (1) デジタル写真技術を学び、適切な臓器写真撮影を瞬時に出来る様にする。
- (2) 生検組織のカセット入れから、切除された消化管など大きな臓器を適切な部位から切片を切り出してカセットに入れるまでの全体の技術を身につける。
- (3) 診断に必要な特殊染色の知識を身につけ、適切な標本を選択し、診断に必要な染色が依頼できるようにする。
- (4) 日常病理診断を担い、臨床医が書いた依頼状を元に、適切な病理診断書の記載を身につける。
- (5) 標本作製の過程を学び、希望者は免疫染色、凍結切片作製などの技術を習得できる。
- (6) 臨床医とコミュニケーションを取り、必要な情報を聞き出したり、伝えることが出来るようにする。

5. 研修到達目標

5-1 行動目標

臨床医が診療を行う際に役立つ診断書を作成する態度を身につける。

病理診断書に記載されている事実を元に治療方針が決定されることの重大さを知り、注意深く診断書に記載できるようになる。

5-2 経験目標

- (1) デジタル写真技術を身につけ、適切な写真が無理なく撮れるようになる。
- (2) 臓器に偏りのない全身の病理標本を経験する。
- (3) 臨床より受け取った組織に対し、適切に切り出しを行なう事が出来る。
- (4) 興味のある臓器における一般的な疾患の病理診断を下すことが出来る。
- (5) 疾患に関してカンファレンス等で病理の説明を行なうことが出来る。
- (6) 希望者には標本薄切、染色手技、凍結切片作製、免疫染色、電子顕微鏡など高度な手技も指導する。